

私立大学研究ブランディング事業 平成29年度の進捗状況

学校法人番号	211003	学校法人名	華陽学園		
大学名	岐阜女子大学				
事業名	地域資源デジタルアーカイブによる知の拠点形成のための基盤整備事業				
申請タイプ	タイプA	支援期間	5年	収容定員	1412人
参画組織	文化創造学部、デジタルアーカイブ研究所、文化情報研究センター、衣食住生活研究センター、長寿健康栄養学センター				
事業概要	知識基盤社会においてデジタルアーカイブを有効的に活用し、新たな知を創造するという本学独自の「知の増殖型サイクル」の手法により、地域課題に実践的な解決方法を確立するために、地域に開かれた地域資源デジタルアーカイブによる知の拠点形成のための基盤整備をする。このことにより、地域課題に主体的に取り組む人材を養成する大学として、地方創成イノベーションの実現と伝統文化産業の振興並びに観光資源の発掘を行う。				
①事業目的	<p>①本事業は、地域に根差し地域社会に貢献する大学として、本学独自で育ててきたデジタルアーカイブ研究を活用し、地域資源のデジタルアーカイブ化とその展開によって、地域課題の実践的な解決や伝統的産業の活性化並びに新しい文化を創造できる人材育成を行い、岐阜地域の知の拠点となる大学を目指すものである。</p> <p>②具体的には、岐阜県が掲げる地方創成イノベーション計画に呼応し、以下に示す地域の代表的な伝統文化産業と観光資源について、デジタルアーカイブ化とその利活用を行い、それぞれの振興と発掘を行う。地域と大学が緊密に連携してデジタルアーカイブ研究を推進し、地域で新たな価値を創造できる人材の養成を行う。</p> <p>(1)飛騨高山の匠の技デジタルアーカイブと伝統文化産業の振興(飛騨地区)</p> <p>(2)郡上白山文化遺産のデジタルアーカイブと世界遺産登録への支援(美濃地区)</p> <p>③上記資源のデジタルアーカイブ研究では、リアルタイムに情報を更新する本学独自の「知の創造サイクル」を用いて地域課題の解決(図2)に取り組み、人材養成に適したカリキュラムと教材テキストの開発を行う。</p>				
②平成29年度の実施目標及び実施計画	<p>【実施目標】</p> <p>○20万件に及ぶ地域の様々な地域資源を保管するデジタルアーカイブを用いて、地域の活性化分野で、知的創造サイクルの一環として、「知の増殖型サイクル」を試行研究し、地域課題を探求し、深化させ課題の本質を探り実践的な解決方法を導き出す手法を確立する。</p> <p>○本事業では、「知の増殖型サイクル」の具体的な実践と各分野、また企業等への適応を進めるための実践を通じて基礎的研究を行う。</p> <p>○本年度は、主に大学の地域連携を知的創造サイクルとして「知の増殖型サイクル」を用いて全学が利用できる地域に開かれた地域資源デジタルアーカイブによる知の拠点形成のための基盤整備をする。また、これらの利用結果を調査し、「知の増殖型サイクル」として、文化、行政、産業、教育等への適応を可能にする。</p> <p>【実施計画】</p> <p>①全国の地域資源(約20万件)のデジタルアーカイブの「知の増殖型サイクル」を用いた地域の活性化を図る。既に、「沖縄修学旅行 おうらい」は、毎年、全国の高校生約1万名が利用し、これまでに約6万名が利用している。また、同様に「飛騨匠の技おうらい」(Hida Orai:海外用)を開発し、インバウンドによる地域の観光資源を発掘するとともに、飛騨高山の匠の技を生かした伝統文化産業の振興を図る。</p> <p>②奈良時代からの歴史ある資料や、地域の木工の文化、歴史、技術、産業、教育の総合的な飛騨高山匠の技デジタルアーカイブについては、「知的創造サイクルとしての地域資料デジタルアーカイブの開発」の研究により、「知の増殖型サイクル」の地域資料への適応について言及している。今年度から3年間で、この研究を基に具体的な開発研究を行う。デジタルアーカイブの「知の増殖型サイクル」等を用いて、とくに、伝統技術の伝承、伝統産業の発展、歴史的価値のある木工製品の伝承、利用拡大を図る。これにより、地域の課題となっている確かな伝統技術の次の世代への伝承を可能にする。</p> <p>③岐阜県の積極的な地域資源の収集・デジタルアーカイブ化を進め、「知の増殖型サイクル」機能を用いて、より文化的価値を高め文化財産として伝承し、地域の観光資源を発掘する。</p> <p>【目標達成度】</p> <p>①飛騨高山匠の技デジタルアーカイブの開発 (コンテンツ数10,000件以上目標)</p> <p>②地域資源のデータベースによる「知の増殖型サイクル」の実証事例の調査(全国10か所の調査)</p> <p>③本学の大学デジタルアーカイブの活用度(Webページの閲覧数 10,000件/年以上)</p> <p>④本学のブランドの浸透度(在校生アンケート調査)(現在1.8% → 15%)</p>				

<p>③平成29年度の事業成果</p>	<p>【実施目標1】 20万件に及ぶ地域の様々な地域資源を保管するデジタルアーカイブを用いて、地域の活性化分野で、知的創造サイクルの一環として、「知の増殖型サイクル」を試行研究し、地域課題を探求し、深化させ課題の本質を探り実践的な解決方法を導き出す手法を確立する。</p> <p>【具体的施策1】 ①飛騨高山匠の技デジタルアーカイブの構築(2017.4-現在) ②2018.2.4:私立大学研究ブランディング事業報告会～デジタルアーカイブin 高山～を開催 ③2018..2.23-25:私立大学研究ブランディング事業報告会～沖縄デジタルアーカイブセミナー～を開催 ④2018.3.18:飛騨匠フォーラムin飛騨センターの記録と調査</p> <p>【実施目標2】 本事業では、「知の増殖型サイクル」の具体的な実践と各分野、また企業等への適応を進めるための実践を通じて基礎的研究を行う。</p> <p>【具体的施策2】 ①沖縄首里城の復元における鎌倉芳太郎のデジタルアーカイブの有効性について調査 ②Wander沖縄デジタルアーカイブにおける10年経過後の状況の調査と課題分析 ③2018.4.20:テキスタルマテリアルセンターにおけるデジタルアーカイブの有効性調査 ④岐阜県におけるデジタルアーカイブの有効性調査 ⑤沖縄・飛騨「おうらい」の冊子の有効性調査</p> <p>【実施目標3】 本年度は、主に大学の地域連携を知的創造サイクルとして「知の増殖型サイクル」を用いて全学が利用できる地域に開かれた地域資源デジタルアーカイブによる知の拠点形成のための基盤整備をする。また、これらの利用結果を調査し、「知の増殖型サイクル」として、文化、行政、産業、教育等への適応を可能にする。</p> <p>【具体的施策2】 ①飛騨高山匠の技デジタルアーカイブの構築(2017.4-現在) ②郡上白山文化遺産デジタルアーカイブの構築(2018.12-現在) ③私立大学研究ブランディング事業のWebを構築し、この中で①②のデジタルアーカイブの一部を公開</p>
<p>④平成29年度の自己点検・評価及び外部評価の結果</p>	<p>(自己点検・評価) ①デジタルアーカイブについて、いろいろと海外にも発信していくということが重要になってくる。 ②本学の遠隔教育とブランディング事業を、うまくリンクしながら進めていくことが必要である。 ③「地方創生のイノベーション」としては、岐阜や沖縄だけではなく、地域資源デジタルアーカイブにより、学生や大学院生などが卒業し、地元に戻ったときに、このデジタルアーカイブをうまく活用できるシステムを作る必要がある。</p>
<p>④平成29年度の自己点検・評価及び外部評価の結果</p>	<p>(外部評価) ①岐阜女子大学においては、地方で活躍し、地方創成イノベーションに繋げる人材を育成してほしい。 ②学校法人経営で、本事業など多くの外部資金を獲得していることについてはとても良い。学生募集について、このブランド力を生かし、大学の資格取得を中心とするオリジナリティーの検討が必要である。 ③少子高齢化の現在、地域の教育力を生かす必要があると考えており、地域に貢献する、地域で活躍できる人材の育成という本事業の目的には共感する。 ④地域資源デジタルアーカイブを観光、伝統、教育等へと広げるなど、その取り組みは重要である。 ⑤「文部科学省私立大学研究ブランディング事業」にデジタルアーカイブが選定されたことは本学の強みである。</p>
<p>⑤平成29年度の補助金の使用状況</p>	<p>① 高山と沖縄での報告会のための講師謝金・旅費 ② チラシ・冊子印刷費(デジタルアーカイブin高山、沖縄デジタルアーカイブセミナー) ③ モデル調査のための旅費・消耗品費 ④ デジタルアーカイブ撮影編集機器の整備 ⑤教材作成費(テキスト並びにDVD)⑥ 報告会会場使用料 ⑦講師依頼旅費・消耗品費 ⑧飛騨高山匠の技デジタルアーカイブの構築費用(Web.撮影旅費) ⑨郡上白山文化遺産デジタルアーカイブに調査旅費 他</p>